

別紙

- 1 種 別 有形文化財（考古資料）
- 2 名 称 かつやまだてあとみやの さわ う がんしゅつどひん
勝山館跡宮ノ沢右岸出土品
- 3 員 数 88 点（内訳：陶磁器 43 点、木製品 32 点、骨角器 11 点、
金属製品 2 点）

4 所 在 地 檜山郡上ノ国町字大留 50－1

5 所 有 者 上ノ国町

6 指定基準

北海道文化財保護条例施行規則（昭和 52 年北海道教育委員会規則第 12 号）第 1 条及び別表第 1 道指定有形文化財指定基準考古資料の部

2 政治、宗教、産業、学芸、文化等の遺跡の出土品その他歴史時代の遺物で学術上価値の高いもの

7 指定理由

北海道最古の民家である国指定重要文化財旧笹浪家住宅の保存修理工事に伴う平成 11 年（1999 年）の発掘調査により発見された、慶長期（16 世紀末～17 世紀初頭）の出土品である。和人と関連する形代、「む志ろ」むしろ（筵）と墨書きされた木簡などとともに、アイヌ文化と関連するイクパスイ（捧酒箸）、弓、シロシ（印）付の漆器盆や骨角器が混在していることが特徴である。当該出土品は、中近世を通じての和人地におけるアイヌ民族との交易・交流を考える上で、資料的価値は高い。

8 解 説

上ノ国町は、渡島半島南西部で交易を基盤に勢力を伸張した、松前氏の先祖にあたる蠣崎氏・武田氏が最初に選んだ拠点であり、中世における北海道の和人にとっての政治・経済・文化の中心地であった。松前氏初代武田信広が文明 5 年（1473 年）頃に築き、慶長期の初め（16 世紀末）頃に廃絶された勝山館から発見された出土品については、平成 20 年（2008 年）に国の重要文化財に指定されている。

勝山館跡宮ノ沢右岸地点は、国指定史跡上之国館跡のうち勝山館跡の指定地内にある。北海道最古の民家である国指定重要文化財旧笹浪家住宅を取り囲む区域において、平成 11 年（1999 年）に行われた上ノ国町教育委員会による発掘調査で、勝山館廃絶後の慶長期（16 世紀末～17 世紀初頭）のものと考えられる 1000 点以上の木製品や陶磁器、骨角器等

が一括して出土した。

指定物件は、この発掘調査により駒ヶ岳の白色火山灰層（1640 年降灰（Ko-d））の直下から出土したもののうち、用途がわかるもの、残りが良いものを中心とした 88 点である。出土品には、和人と関連する形代、^{かたしろ}「むしろ」（蒔）と墨書きされた木簡などとともに、アイヌ文化と関連するイクパスイ（捧酒箸）、弓、シロシ（印）付の漆器盆や骨角器が混在している。

当該出土品は、天文 19 年（1550 年）の^{いてきのしょうはくおうかんの は っ と}「夷狄商舶往還法度」によって和入地となった上ノ国において、中近世を通じて和人とアイヌ民族の間で交易・交流があったことを示唆するもので、その資料的価値は高い。また、出土品の中に含まれるアイヌ民族の祭祀具であるイクパスイは遺跡からの数少ない出土例であり、近代の民族誌に記録されたアイヌ民族の儀礼慣習等の起源を解明する上で特にその価値が高い。

[勝山館跡宮ノ沢右岸出土品内訳数量一覧]

名 称	点 数	備 考
陶磁器	43	染付碗、染付皿、染付盤、瀬戸・美濃皿、越中瀬戸皿、瀬戸・美濃碗、志野皿、唐津碗、唐津皿
木製品	32	樽、桶、串、横槌、下駄、木簡、楔、 ^{かたしろ} 形代、羽子板、へら、漆碗、漆盆、丸木弓、イクパスイ
骨角器	11	中柄、鹿角切片
金属製品	2	^{はさみ} 鋏、 ^{こうがい} 筭
合計	88	



木製品



イクパスイ



骨角器・金属製品

(写真提供：上ノ国町教育委員会)